

2018年の米国のプロパン輸出は2,858万トンを サウジ輸出最盛期の3倍近い

1. 米国エネルギー情報局（E I A）がこのほど明らかにしたところによると、2018年の米国のプロパン輸出量は過去最高の2,858万トンとなった。2017年の2,686万トンを172万トン、6.4%上回った。

米国の石油製品別輸出量は、中間留分が毎年第1位、ガソリンが第2位となっていたが、2016～2018年はプロパンがガソリンを抜いて第2位となった。シェールガスの大増産により天然ガス随伴のNGL（天然ガス液）の生産量が急増し、これを天然ガスから分離するガス・プロセッサー（ガス処理プラント）の能力が拡大しているためだ。天然ガスからガス処理プラントで分離されたNGLを米国ではNGPL（天然ガスプラント液）というが、この生産量は2018年には430万バレル/日になった。2019年2月には470万バレル/日にも達した。NGLの併産割合の高い北東部のマーセラス・シェールやユーティカ・シェール、更にはテキサス州とニューメキシコ州に跨るイーグル・フォード・シェールなどのシェールガス生産がとりわけ増大しているためだ。

2. NGL（ないしはNGPL）を分留装置（フラクショネーター）にかけると、エタン、プロパン、ノルマルブタン、イソブタン、天然ガソリンが生産されるが、プロパンの需要が世界的に増加し、米国のプロパン輸出が大規模化するまでは分留装置能力も限られており、NGLはフレアされるか地中に戻されるか、あるいは超重質原油の希釈剤となっていた。しかし、サウジのプロパン輸出が減少する一方で、中国、インド、東南アジア諸国でのLPガス需要が急増し、日本のLPガス輸入もサウジなど中東から米国に大きくシフトするに及んで、米国内にガス処理プラントと並んで分留装置がどんどんと新增設されるに至っている。かつてプロパンを会場だけでも500万トン/年も輸入していた米国は、今日ではプロパン2,800万トン・ブタン400万トンの計3,200万トン/年のLPガス輸出国となった。ガソリン輸出を抜きLPガス・プロパンが石油製品輸出量で第2位を続けるに至ったのだ。

3. 米国の石油製品輸出のうち大半が西半球向け輸出になるのに対して、プロパンはかなりの部分がアジア向け輸出となっており、輸出仕向け先トップ5のうち3カ国がアジアとなっている。最大の輸出先はいうまでもなく日本。2018年には前年比141万トン増の758万トンが日本向け輸出量となった。日本の2018年度の統計では（既報）、LPガス輸入量1,064万トンのうち69.6%に当たる741万トンが米国からの輸入。プロパンだけに限ると、896万トン輸入の80.0%の717万トンが米国からの輸入となっている。

日本に次いで米国からのプロパン輸入が多いのがメキシコ、次いで韓国、中国となっている。中国向け輸出も急増してきたが、2018年は米中貿易戦争の影響で前年比49%もの減少となった。中国はその分を中東玉やアフリカ玉で補っている。第5位がオランダ。これは北西ヨーロッパ向け輸出がアムステルダムやロッテルダムなどオランダの港となるからだ。

4. 米国のエンタープライズ社、タルガ社、フィリップ 66 社などは、国内での天然ガス需要の増加、パイプラインでのカナダ、メキシコへの天然ガス輸出、LNGでの世界各地への輸出増に対応して、ガス処理プラント、分留装置を更に増強しているし、NGLのパイプラインも延伸している。NGL生産量は2030年には600万バレル/日になると予測されている。これまでは分留装置などを新增設してもエタンの処理に困っていたが、エタン原料のエチレンプラントが米国内にどんどん建設されているほか、海外のエチレンプラントも米国からの輸入エタンに原料シフトしている。このため、プロパンを増産・増輸出する妨げとなるものはほとんどなくなった。障害があるとすれば、メキシコ湾岸の濃霧ということになるだろうか。

米国のプロパン輸出量推移と2018年の国別輸出先は次のとおり（単位・千バレル/日）。

